

02.7.2004

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

REC'D 19 AUG 2004
WFO
PCT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日 Date of Application: 2003年11月 4日

出願番号 Application Number: 特願2003-374535

[ST. 10/C]: [JP2003-374535]

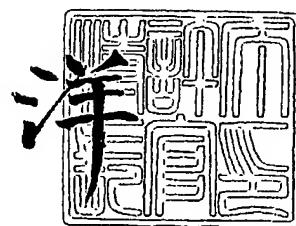
出願人 Applicant(s): 仁志 治郎

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 8月 6日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川



【書類名】 特許願
【整理番号】 14659
【提出日】 平成15年11月 4日
【あて先】 特許庁長官 今井 康夫 殿
【国際特許分類】 G09F 19/00
【発明者】
【住所又は居所】 香川県綾歌郡宇多津町 2628-599
【氏名】 仁志 治郎
【特許出願人】
【住所又は居所】 香川県綾歌郡宇多津町 2628-599
【氏名又は名称】 仁志 治郎
【代理人】
【識別番号】 100075731
【住所又は居所】 香川県高松市林町 2217番地15 香川産業頭脳化センタービル
ル304号
【弁理士】 大浜 博
【氏名又は名称】 087-868-2811
【電話番号】
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 009139
【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1

【書類名】特許請求の範囲

【請求項 1】

年代や順路や重要度等の一連の順序付けができる順序付け対象物件における各個別順序付け部位に、虹色である「赤・橙・黄・緑・青・藍・紫」の各順位色のうちから、該各個別順序付け部位が属する順位に該当する順位色の色を割り当ててそれぞれ着色表示することを特徴とする順序表示付与方法。

【書類名】明細書

【発明の名称】順序表示付与方法

【技術分野】

【0001】

本願発明は、年代や順路や重要度等の一連の順序付けができる順序付け対象物件において、各個別順序付け部位が一連の順序のどの位置にあるのかを解り易くするための順序表示付与方法に関するものである。

【背景技術】

【0002】

一連の順序付けができる順序付け対象物件として、例えば、年代（時代）順に記述された歴史書や、各種の展示ブースを集めた展示会場や、美術館等における等級（重要度）の異なる各種展示品からなる展示品群、等の多岐に亘るものがある。

【0003】

歴史書は、一般に年代（時代）の古い方から順に掲載されており、且つ各時代ごとにまとめて記述されている。しかし、従来の歴史書では、各時代の順序あるいは出来事と時代との関連性等を解り易くするための工夫が乏しかった。

【0004】

各種の展示ブースを集めた展示会場や美術館等では、各ブースや展示品の観覧順序が決まっていると効率よく巡回できる。尚、美術館等では、順路を指示していることもあるが、これは単に順路を示すだけで、現在位置が全順路のどのあたりになるのか等を示すものではない。

【0005】

美術館等における展示品は、国宝を頂点にして文化的価値が異なる各種のものがある。例えば、美術館等における展示品には、国宝、重要文化財、県宝、県指定の有形文化財、市町村指定の有形文化財、県指定の伝統工芸品、その他（指定なし）、等がある。しかし、これらの展示品に付される文化財の種類等については、その重要度についてよく理解できていない人もいる。特に、言語の解らない異国人には、文化財の種類の違いを理解するのは難しい。

【0006】

尚、本願発明に関連する技術の一例として、例えば書籍において、各セクションごとにそれぞれ別の着色表示をしたものがあるが、その外に本願発明に対比するような公知文献は特に見当たらない。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

ところで、上記のような何らかの順序付けができる順序付け対象物件については、それぞれ適当な順序付けを行うことが便利であるが、順序付けとして例えば数字で順位を表示したものでは、末尾の番号が解らないと当該個別順序付け部位が全体のどの位置（重要度ランクを含む）にあるか判別できない。

【0008】

そこで、本願発明は、各種の順序付けができる順序付け対象物件に対して、各個別順序付け部位がどの位置（ランク）にあるか容易に確認できるようにした、順序表示付与方法を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0009】

本願発明は、上記課題を解決するための手段として次の構成を有している。

【0010】

本願発明は、年代や順路や重要度等の一連の順序付けができる順序付け対象物件における各個別順序付け部位を、色により識別し得るようにした順序表示付与方法を対象にしている。

【0011】

順序付けができる順序付け対象物件としては、例えば、年代（時代）順に記述された歴史書や、各種の展示ブースを集めた展示会場や、美術館等における等級（重要度ランク）の異なる各種展示品からなる展示品群、等の多岐に亘るものがある。

【0012】

そして、本願発明では、それらの各種の順序付け対象物件における個別順序付け部位に対して、虹色である「赤・橙・黄・緑・青・藍・紫」の各順位色のうちから、該個別順序付け部位が属する順位に該当する順位色の色を割り当ててそれぞれ着色表示するものである。

【0013】

虹色は、「赤・橙・黄・緑・青・藍・紫」の7色であり、この虹色（7色）の種類及び色の順位（並び）は万国共通で認知されている。そして、この虹色を、年代や順路や重要度等の一連の順序付け対象物件の各個別順序付け部位に対して、順序付け表示として利用すると、各個別順序付け部位が全体のどの位置（重要度ランクを含む）にあるかを一目で判別できる。

【0014】

虹色の7色の順序付けは、「赤」が第1順位で、以下「紫」の第7順位まで順次割り当てる。尚、虹色は7色であるが、個別順序付け部位の個数（又はランク個数）が7個を超えるときには、例えば虹色の各色に濃薄の差をつけて分割したり（2段階でも3段階でもよい）、あるいは各順位色（例えば「赤」と「橙」）の間のランクにその両方の色（例えば「赤・橙」）を半々に併記したりすることで、必要に応じて順位色の個数を増加させることができる。尚、順序付け個数が7個に満たない場合は、虹色の順位色の「赤」から順に割り当てていき、その残余の順位色（例えば「紫」）は不使用にする。

【0015】

本願の順序表示付与方法の使用例として、例えば次のようなものがある。

【0016】

例えば、歴史書は、一般に年代（時代）の古い方から順に掲載されている（例えば、古墳時代→飛鳥・奈良時代→平安時代→鎌倉時代→室町・安土桃山時代→江戸時代→近現代という順に掲載されている）。そして、歴史書においては、各時代ごとの各頁の適所（例えば紙面の縁）に、古い方から順に虹色の各順位色を割り当てて着色表示すると、その色を見ることで（同色か否かで）、各出来事が1つの時代の範囲のものかどうかの判別ができるとともに、虹色（7色）の中のどの順位色かによって当該時代が歴史全体の中のどの位置位置にあるかが解る。尚、書物によっては、セクションごとに色分け表示したものを見受けられるが、この種の色分け表示は1つのまとまり（セクション）を表示するのみで、本願が対象にしている個別順序付け部位の順序付け機能ではない。

【0017】

又、各種の展示ブースを集めた展示会場や美術館等では、各ブースや展示品の観覧順序が決まっていると混雑しないで巡回できるが、会場に単に順路が表示されているだけでは、現在位置が全順路のどのあたりになるのか、あるいはあとどれくらい残っているのか等を知ることができない。

【0018】

又、美術館等における展示品は、国宝を頂点にして文化的価値が異なる各種のものがある。例えば、美術館等における展示品には、国宝、重要文化財、県宝、県指定の有形文化財、市町村指定の有形文化財、県指定の伝統工芸品、その他（指定なし）、等がある。そして、このような順序付け（重要度付け）できる展示品については、それらの展示品の説明プレートに、当該展示品が属する順位に該当する虹色中の順位色を表示するとよい。例えば、展示品が国宝であれば第1順位色の「赤」、重要文化財であれば第2順位色の「橙」、県宝では第3順位色の「黄」というふうに、展示品の重要度ランクによって虹色中の順位色を付与すればよい。

【発明の効果】

【0019】

このように、本願発明では、一連の順序付けができる順序付け対象物件における各個別順序付け部位に、虹色である「赤・橙・黄・緑・青・藍・紫」の各順位色のうちから、各個別順序付け部位が属する順位に該当する順位色の色を割り当ててそれぞれ着色表示するようとしているので、個別順序付け部位の色を見るだけで、一連の順序付け対象物件中ににおける当該個別順序付け部位の位置（重要度ランクを含む）を明確に認識できる。又、虹色の各順位色（赤・橙・黄・緑・青・藍・紫の順）は、言語が異なる異国人であっても万国共通のものであり、順序付け表示に虹色の順位色を使用すると、見る人に理解させ易いという効果がある。

【実施例】**【0020】**

図1～図6を参照して、本願発明の順序表示付与方法の実施例を説明すると、図1及び図2には第1実施例、図3及び図4には第2実施例、図5及び図6には第3実施例がそれぞれ示されている。尚、上記各実施例では、順序付け対象物件として、それぞれ次のものを採用している。即ち、図1及び図2の第1実施例では各時代ごとに記述されている歴史書を採用しており、図3及び図4の第2実施例では各展示ブースを集合させた展示会場を採用しており、図5及び図6の第3実施例では美術館等に展示されている展示品群を採用している。

【0021】**図1及び図2の第1実施例**

この第1実施例では、特許請求範囲における順序付け対象物件が歴史書であり、同じく特許請求範囲における個別順序付け部位が該歴史書における各時代（古墳時代～近現代）ごとの頁（例えば図2）である。

【0022】

そして、この第1実施例では、図1に示すように虹色である「赤・橙・黄・緑・青・藍・紫」の7色を「赤」から古い順の順位色3A～3Gとし、該各順位色3A～3Gを歴史書における各時代（古墳時代～近現代）ごとの記述部分に割り当ててそれぞれ適所に着色表示（図2の符号3A部分）している。

【0023】

この第1実施例では、各順位色3A～3Gは、図2に例示するように各頁の紙面2の上縁部と外縁部とに跨がって細幅づつ着色表示している。尚、図2の紙面2は、歴史書における時代的に最も古い古墳時代を記述したもので、着色部3Aの色は「赤」である。そして、この歴史書では、各時代の古い順に虹色の各順位色3A～3Gを割り当てている。即ち、図1に示すように、古墳時代の記述頁には「赤」の着色3A、飛鳥・奈良時代の記述頁には「橙」の着色3B、平安時代の記述頁には「黄」の着色3C、鎌倉時代の記述頁には「緑」の着色3D、室町・安土桃山時代の記述頁には「青」の着色3E、江戸時代の記述頁には「藍」の着色3F、近現代の記述頁には「紫」の着色3Gをそれぞれ施す。尚、順序付け個数（区分けすべき年代）が7個を超えるときには、例えば虹色の各色に濃薄の差をつけたり（2段階でも3段階でもよい）、あるいは各順位色（例えば「赤」と「橙」）の間の順位にその両方の色（例えば「赤・橙」）を半々に併記したりすること等で、順位色の個数を増加させることができる。尚、順序付け個数が7個に満たない場合は、虹色の順位色の「赤」から順に割り当てていき、その残余の順位色（例えば「紫」）は不使用にする。

【0024】

又、紙面2に絵（図2の符号4）を掲載している場合には、該絵4部分の適所（図示例では下辺）に、その絵が属している時代を表す順位色（図2では「赤」）を着色表示（符号4a）しておくと、該絵4を時代（古墳時代）に関連付けて学習（理解・記憶）することができる。

【0025】

この第1実施例のものでは、虹色（赤・橙・黄・緑・青・藍・紫）の各順位色3A～3

Gを歴史書の各時代ごとの記述頁に割り当ててそれぞれ着色表示しているが、このようにすると、歴史書の頁の着色表示の色を見ることで（同色か否かで）、各出来事が1つの時代の範囲のものかどうかの判別ができる。又、虹色（7色3A～3G）の中のどの順位色かによって、当該時代の古さが全体の中のどの位置にあるかを感覚的に理解できる。

【0026】

尚、この第1実施例の場合には、この歴史書の目に付き易い場所に、時代の古い順に虹色の「赤」から順の各順位色3A～3Gを割り当てていること（例えば図1の表示）を表示しておくとよい。

【0027】

図3及び図4の第2実施例

この第2実施例では、図4に示すように、特許請求範囲における順序付け対象物件が複数の展示ブースを集合させた展示会場5であり、同じく特許請求範囲における個別順序付け部位が該展示会場5における各展示ブース（第1ブース～第7ブース）6A～6Gである。尚、各展示ブースは、展示会場における入口側からの順路順に第1ブース6A～第7ブース6Gとしている。

【0028】

そして、この第2実施例では、図3に示すように虹色である「赤・橙・黄・緑・青・藍・紫」の7色を「赤」から順の順位色3A～3Gとし、該各順位色3A～3Gを展示会場5内に設置される各展示ブース（第1ブース～第7ブース）6A～6Gに割り当ててそれぞれ展示ブースの適所（例えば立て看板等）に着色表示している。尚、展示ブースの個数が7個より多い場合は、上記第1実施例で記載したように、虹色の各順位色を濃薄分割する等の方法で順位色の個数を増加させることができ、他方、展示ブースの個数が7個未満の場合には、残余（不使用）の順位色（例えば「紫」）は使用しない。

【0029】

この第2実施例では、各展示ブース6A～6Gに付与している虹色の各順位色3A～3Gによって、各展示ブースの観覧順序が解るとともに、現在居る位置の展示ブースの順位色を見ることによって現在位置が全順路のどのあたりにあるのかが理解できる。

【0030】

尚、この第2実施例の場合には、展示会場5の入口付近の目に付き易い場所に、順路順の各展示ブース6A～6Gに虹色の「赤」から順の各順位色3A～3Gを割り当てていること（例えば図3の表示）を表示しておくとよい。

【0031】

図5及び図6の第3実施例

この第3実施例では、図6に示すように、特許請求範囲における順序付け対象物件が美術館等における多数の展示品群であり、同じく特許請求範囲における個別順序付け部位が展示品群の各展示品7である。

【0032】

美術館等に収蔵されている各種展示品7は、文化的価値（図5に示す各種ランク）が異なっている。例えば、この種の展示品には、国宝、重要文化財、県宝、県指定の有形文化財、市町村指定の有形文化財、県指定の伝統工芸品、その他指定なし、等がある。そして、このようなランク付け（重要度付け）できる各展示品7については、それらの展示品の説明プレート8等に、当該展示品が属するランクに該当する虹色中の順位色3A～3Gを表示するといい。例えば、展示品が国宝（第1ランク）であれば第1順位色の「赤」、重要文化財（第2ランク）であれば第2順位色の「橙」（図6の例）、県宝（第3ランク）であれば第3順位色の「黄」というふうに、展示品の重要度ランクによって虹色中の該当する順位色を付与すればよい。

【0033】

この第3実施例のものでは、展示品7に付与されている順位色（3A～3G）の色を見ることで、文書表示とは別に当該展示品7の重要度ランクが一目で理解でき、且つその重要度ランクが全ランク中のどの程度の高さにあるかを瞬時に理解できる。このことは、特

に説明文を読めない人（例えば異国人）や文意（文化財種類の等級等）が解らない人でも、展示品7における順位色（3A～3G）の色を知ることで、当該展示品の重要度ランクを理解できる。

【0034】

尚、この第3実施例の場合にも、美術館の入口付近の目に付き易い場所に、各展示品7の説明プレート8等に重要度ランクを示す虹色のうちのいずれかの順位色（3A～3G）を割り当てていること（例えば図5の表示）を表示しておくとよい。

【図面の簡単な説明】

【0035】

【図1】本願第1実施例の順序表示付与方法を示す説明図である。

【図2】図1の順序表示付与方法を具体化した歴史書の1つの頁の平面図である。

【図3】本願第2実施例の順序表示付与方法を示す説明図である。

【図4】図3の順序表示付与方法を具体化した展示会場の平面図である。

【図5】本願第3実施例の順序表示付与方法を示す説明図である。

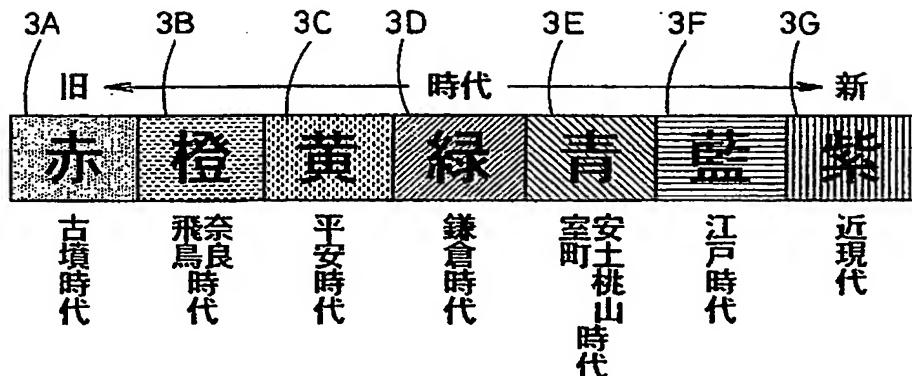
【図6】図5の順序表示付与方法を具体化した展示品の正面図である。

【符号の説明】

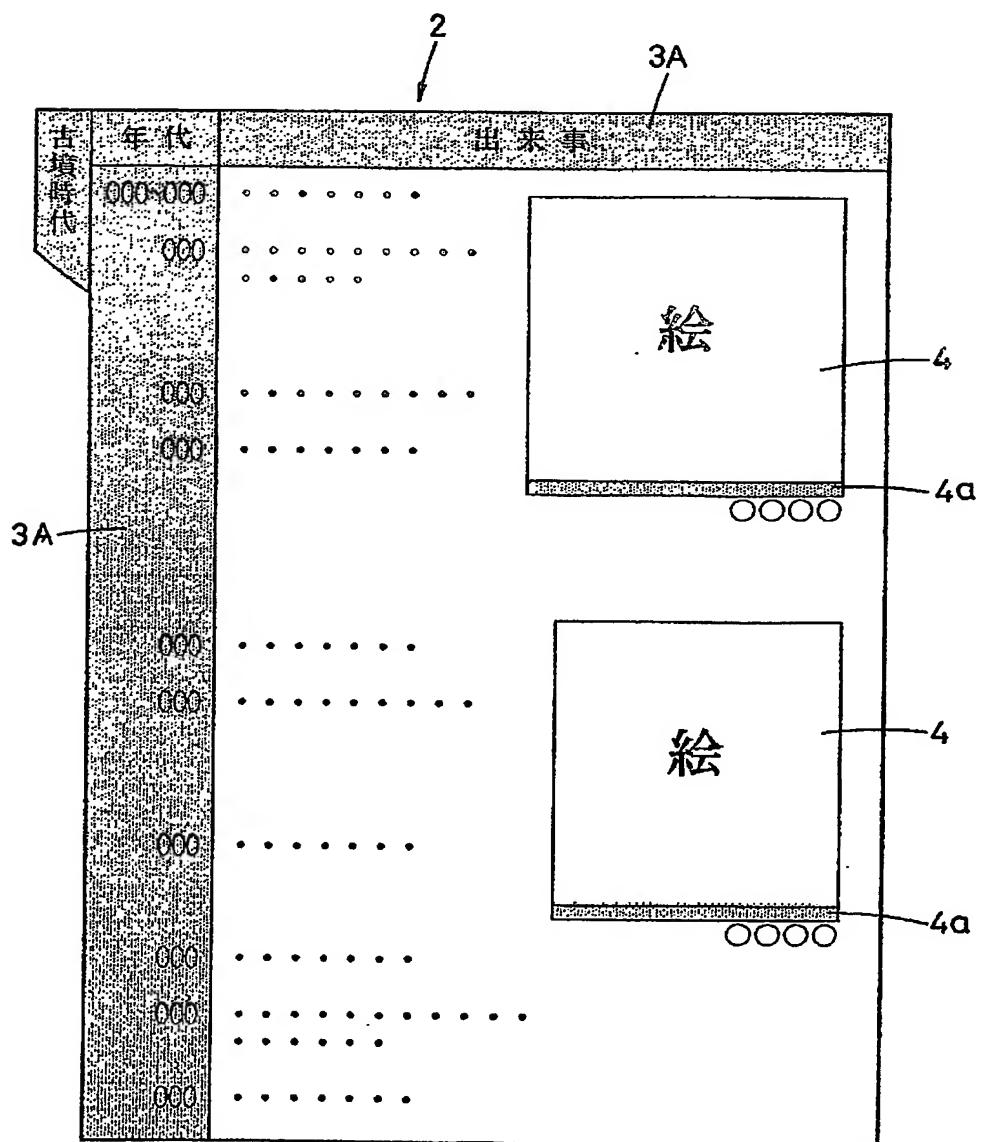
【0036】

2は紙面、3A～3Gは虹色の順位色、4は絵、5は展示会場、6A～6Gは展示バス、7は展示品、8は説明プレートである。

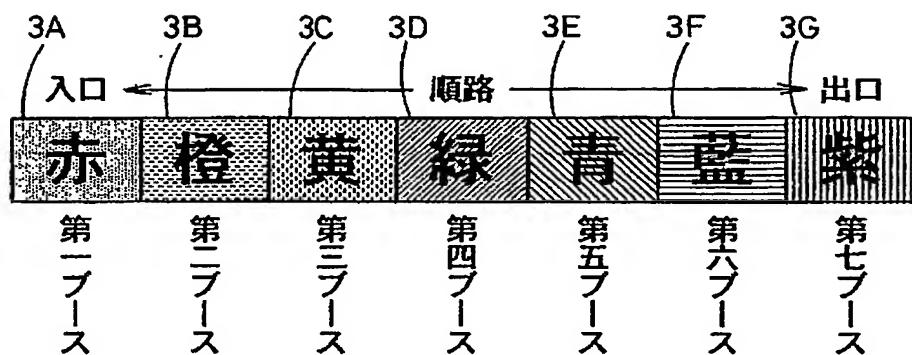
【書類名】図面
【図1】



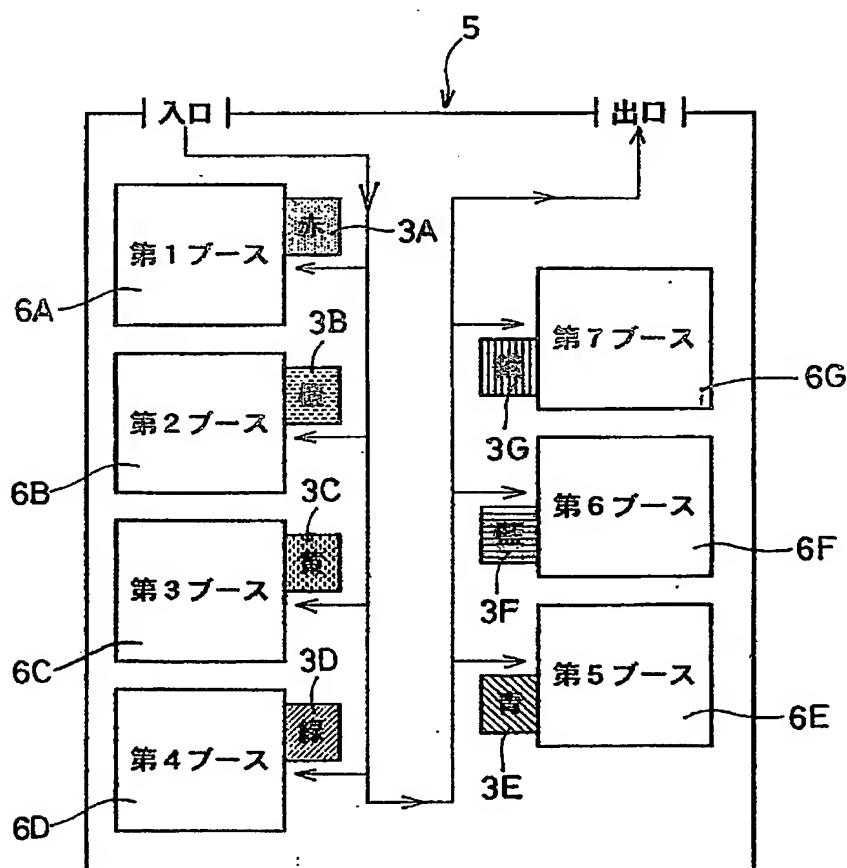
【図2】



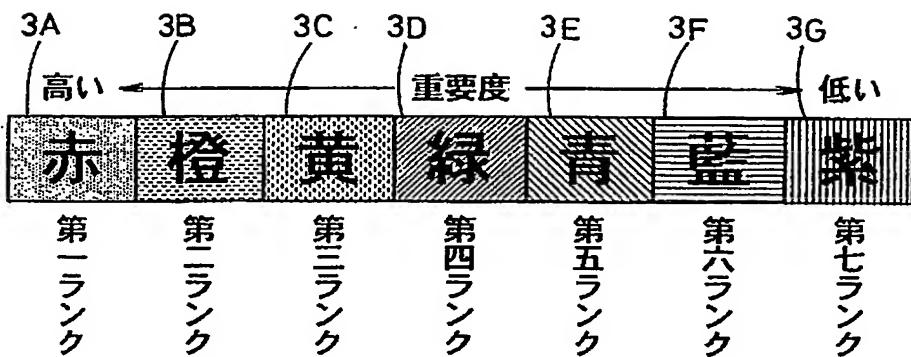
【図3】



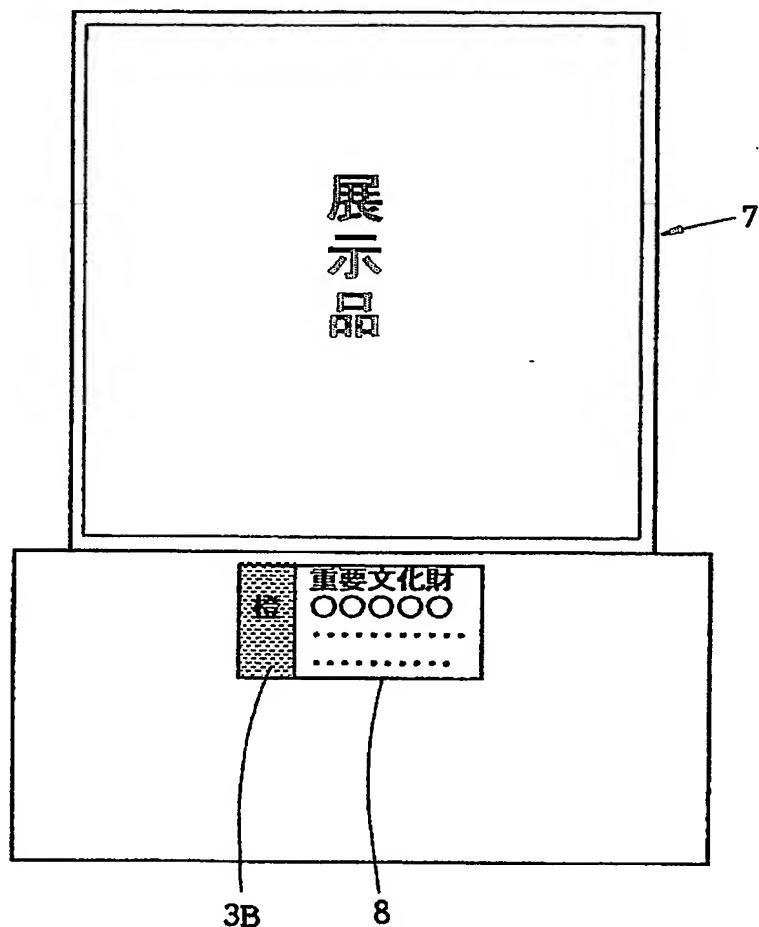
【図4】



【図5】



【図6】



【書類名】要約書

【要約】

【課題】 年代や順路や重要度等の順序付けができる順序付け対象物件において、各個別順序付け部位の順序付けが解りにくかった。

【解決手段】 年代や順路や重要度等の一連の順序付けができる順序付け対象物件における各個別順序付け部位に、虹色である「赤・橙・黄・緑・青・藍・紫」の各順位色のうちから、該各個別順序付け部位が属する順位に該当する順位色の色を割り当ててそれぞれ着色表示することにより、該着色表示の色を見ることで当該個別順序付け部位の位置（重要度ランクを含む）を知ることができるようとした。

【選択図】 図1

特願 2003-374535

出願人履歴情報

識別番号

[503404589]

1. 変更年月日

[変更理由]

住 所

氏 名

2003年11月 4日

新規登録

香川県綾歌郡宇多津町 2628-599

仁志 治郎